

武漢視察 (5/30～6/2) 報告

若くて優秀な人材が豊富な 内陸の拠点、ウーハン武漢

日中経済交流研究会では毎年訪中団を派遣して、中国の現状を視察してグローバルな視野を持ち、自社経営に役立てています。

また、訪中団の内容の充実のために有志が下見を行い本番への綿密な準備をしています。下見に参加した居相浩介常務(アベル株式会社)からの視察報告です。

今回の視察先武漢の特徴は、

- ①沿海部と内陸部の成都、西安、重慶をつなぐ交通の要所としての地理的特徴を活かして、自動車、光電子、ハイテク産業が発展している。現在は水路、高速道路、鉄道、空路などインフラ整備が進んでいる。
- ②武漢大学、華中科技大学など86の大学があり、20代人口が2割を占め、若くて優秀な人材が多い。しかし多くの卒業生が沿海部へ就職してしまうため、コア人材は不足している。
- ③自動車産業の集積地として大手自動車会社が進出済みで、今後も自動車関連産業はますます拡大する見込みである。しかし日系企業という理由だけでは日系メーカーから歓迎されることはなく、現地企業との競争を強いられることになっている。
- ④三峡ダムという中国最大の水力発電ダムのおかげで、365日安定した電力の供給が可能で、IT産業も発展している。また沿海部への電力供給の拠点となっている。
- ⑤人件費は上海の1/2、日本の1/10、賃貸オフィスは上海の1/5、日本の1/6とコストは安い。
- ⑥武漢市には、食品、電子機器がメインの「呉家山経済開発区ハンコウ(漢口)」、自動車がメインの「武漢経済技術開発区ハンヤン(漢陽)」、光通信・ハイテク産業がメインの「東湖高新技术開発区フーチャン(武昌)」という3大国家級経済開発区がある。

視察では、東湖開発区の日系企業で、人材派遣やデータ入力作業を請け負うIT企業を訪問した。人件費の相場は学生のアルバイトで時給8元、正社員で月収1,600元、不動産の相場はレンタルオフィス(55㎡)で月額45,000円程度とのこと。続いて東湖開発区投資促進局(政府機関)の責任者にブリーフィングを受けた後、華中科技大学文華学院の日本語学科の先生と交流を図った。実際に日本語の授業を見学したところ、「朝が



現地企業との打ち合わせ ▲



日本語を学ぶ中国人学生 ▲

強い]「朝が弱い」の意味は?といった日本語の微妙なニュアンスに踏み込んだ実践的な授業が行われていた。他に、自動車部品製造の日系企業、JETRO武漢への訪問、現地企業の中国人経営者や武漢駐在の日本人との会食を通じて交流を深めた。また、武漢は小売流通業が強く、2014年に日本資本のショッピングモールが開店予定で、日本雑貨などを扱う企業の進出余地が増えそうである。

日系企業が武漢に進出する理由は、沿海部に拠点を持つ企業が次の拠点として、中国国内のマーケット展開のために武漢を選ぶという選択が多いようである。バーリンハウ(80后)を多く抱える発展途上の「武漢」はますます目が離せない町になりそうだ。

訪中団参加者募集 (今年度は2回計画しています)

とりあえず中国を見てみたい方

日 時 平成25年9月12日(木)～15日(日)
訪 問 先 上海、蘇州
見どころ 上海では日中ものづくり商談会@上海2013の視察
蘇州では日系企業やローカル企業訪問
「中国って」と疑問を持たれている会員には最適です!

中国を深く知りたい方

日 時 平成25年11月2日(土)～6日(水)(8月募集予定)
訪 問 先 武漢(今回の下見記事参考にしてください)
見どころ 沿岸部とは違う内陸部の現状視察
世界の工場から市場への変貌の視察
学生との交流を通じて、今後の日中関係を探る

※スケジュールなどは現地の状況により変更される可能性があります。詳細は同封の案内をご確認ください。

問い合わせ先…事務局 和田まで